

# 大豆新奨励品種「里のほほえみ」の栽培法

平成30年度版 福島県農林水産部

## 品種の特徴

- タチナガハ並の中生の晩
- 百粒重は40g以上の極大粒
- 白花で他品種と区別可能
- 茎は太く、倒伏しにくい
- 成熟期になっても莢がはじけにくい
- 最下着莢高が高く、コンバイン収穫に適する
- ダイズシストセンチュウに弱いので、連作を避ける
- べと病に弱いので、排水対策と適期防除につとめる

## 適応地帯

- 県内全域（標高450m以下）

## 基本的な栽培法

- 播種期  
6月上～中旬  
裂皮粒発生軽減のため早播を避ける
- 栽植密度  
畦間70～80cm 株間15～20cm  
やや密植として莢数を確保する

## 施肥体系（10aあたり施用量）

### 土作り

石灰 …………… 80～100kg  
堆肥 …………… 1～2t  
ようりん …………… 30～40kg




### 分施肥体系

基肥：窒素 …………… 1.5～2kg  
リン酸 …………… 8～12kg  
カリ …………… 8～12kg  
追肥：窒素（LP70） …………… 6kg

### 全量基肥体系

基肥：窒素 …………… 7～8kg  
（うち緩効性 …… 6kg）  
リン酸 …………… 8～12kg  
カリ …………… 8～12kg

● 「ふくしまからはじめよう。」農業技術情報に基づき、放射性セシウム吸収抑制対策を実施する

月	5			6			7			8			9			10			11							
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中						
生育ステージ				出芽						開花期						黄葉期										
生育状況																										
				＜出芽時＞ －胚軸色は緑－			＜生育期＞ －丸葉－			＜開花＞ －花色は白－																
管理作業	堆肥施用		排水・土改材施用		耕起・施肥		播種		中耕培土		中耕培土		畦間灌水		病害虫防除（アブラムシ）		追肥		病害虫防除（紫斑病）		病害虫防除（カメムシ類）		収穫		乾燥・調製	
雑草防除				土壌処理剤 播種直後に必ず散布する			茎葉処理剤 大豆2葉期			茎葉処理剤 （難防除雑草対策） 大豆5葉期			畦間処理剤 大豆にかからないように注意する													
作業の留意点	出芽数の確保						湿害防止で生育量確保						適期防除で病害虫被害予防													
	● 大粒なので、種子は5～6kg/10a準備する						● 必ず中耕培土を行う						● 開花期後20～40日に紫斑病防除とあわせてマメシンクイガ防除													
	● 排水溝や暗きよにより排水を図る						● 中耕培土時には、大豆の株元まで十分に土が寄るように実施する						● 9月上旬にカメムシ防除。発生が多い場合には追加散布を行う													
							● 湿害を受けた場合は、尿素等により窒素1kg/10a程度の追肥と培土を行う						● ウコンノメイガの発生に注意する													

## ＜生育の目標（暫定版）＞

主茎長 …………… 80cm以下  
主茎節数 …………… 15節  
分枝数 …………… 4～5本  
最下着莢高 …… 20～25cm  
稔実莢数 …… 550～600莢/m<sup>2</sup>  
百粒重 …………… 42～43g  
収量 …………… 300kg/10a



＜子実＞

左:里のほほえみ 右:タチナガハ